

研究倫理

授業科目名	研究倫理	単位数 2 単位
英語標記	Research Ethics	
授業コード	360405	
受講人数	50 人	
担当教員	池田 光穂	
対象	全研究科大学院生、社会人（10 名程度）	
開講時間等	集中（6 月 5 日、6 月 12 日、6 月 19 日の 1～4 限、6 月 26 日の 1～3 限：計 4 日間）	
開講場所	吹田キャンパス：医学部 講義棟 B 講堂	
キーワード	学問、科学研究、倫理、研究公正、臨床試験	
授業の目的	医歯薬学系、工学系などの研究に関わる倫理的諸問題の全体像を把握し、具体的なトピックに即して、研究に従事する者として踏まえておくべき倫理原則と規範を習得する。	
講義内容	基礎生物学および工学研究および臨床医学研究を取り巻く倫理的・社会的な課題を取り上げて、その背景、問題状況、見解の対立、解決策などを講述します。各講義では、それぞれの課題が生じてくる実際の研究の場面に即しながら、問題志向的に考察を加えていき、受講者が自ら考える契機となることを目指します。	
1 日目	01 科学研究とコミュニケーション 02 臨床研究とは 03 工学研究とは(1) 大学の現場から 04 工学研究とは(2) 企業の現場から	
2 日目	05 経済学研究における研究倫理 06 社会学における研究倫理 07 研究公正の諸問題 08 研究公正をめぐる実態と対策	
3 日目	09 安全倫理(1) 10 安全倫理(2) 11 動物実験の現場から 12 フィールドワーク研究の倫理	
4 日目	13 臨床研究の倫理 14 臨床研究の現場から（治験担当者の立場、医師の立場） 15 臨床研究の諸問題（弁護士の立場、医師の立場）	
教科書	特に指定しませんが、適宜資料を配布します。	
参考書	授業時に適宜紹介します。	
成績評価	出席点、レポートの内容などを評価します。	

研究倫理を考える

近代科学やそれを実用化した革新的技術は飛躍的に発展し、人間や社会に対して多大な恩恵をもたらしてきた一方で、環境・生態系の破壊や大量殺戮などの問題を引き起こしてきたことも歴史的事実です。科学や技術はまた、政治権力や巨大ビジネスと結びつくとき、様々なマイノリティの人権の侵害につながるということもあったし、その成果が万人に享受されないことも珍しくありません。自由かつ独創的で、質の高い科学研究は、そうした人間生活や社会との関係を視野に収めた研究倫理に裏づけられたものでなければなりません。言い換えれば、科学研究は、それが人間や社会に対してどのような影響を及ぼすのかを意識し、絶えず自らの営みを反省することが必要となるのです。従って、科学研究における責任ある行動が、誠実さ、正確さ、効率性、客観性といった基本的な価値を尊重するものでなければならないことを踏まえ、科学研究の健全な発展を図ることが研究に従事する者一人一人に求められます。

今、なぜ、研究倫理か

近年、成果至上主義や利潤追求などの圧力によると思われる科学研究の不正行為が頻発する傾向が見られます。科学研究において不正行為が行われると、健全かつ正しい科学研究の発展が阻害されるだけでなく、研究に対する社会の信頼が損なわれ、多くの人々に対して重大な悪影響がもたらされる可能性があります。それゆえ、多くの国では、不正行為を予防し、かつ起こった場合にこれを適切に処理して再発防止に務めるために、国家レベルあるいは各大学・研究施設がそれぞれ指針を定め、研究不正行為に対処するための研究倫理委員会を設置しています。これに対して日本では、研究の不正行為が頻発している中で、十分な対応ができていない状況にあり、政府や学術会議あるいは各大学・研究施設がようやく取り組みを開始しているところです。

研究倫理観の向上のために

本講義では、医学・工学を中心に研究者を目指す大学院生を対象として、様々な研究分野で理論・実践に従事する講師陣が、それぞれの立場から研究と人間・社会の関わりについて講述します。ここでは、科学研究を取り巻く社会的な課題が具体的に取り上げられ、受講者自身が自分自身の問題として考える姿勢を身につけること、そして受講者各自の研究倫理観を向上させることが目指されます。